

新社長に聞く

重仮設大手の丸紅建材リースは、新社長として葉山章司氏が6月27日付で就任した。今年11月には創立50周年の節目を迎えるのに先立ち、7月から全国各地で行う安全大会とともに創立記念パーティも開催する。葉山社長に今後の抱負や展望などを聞いた。

——就任の抱負を。

「重仮設リース業は社会の基盤を支える大事な仕事と認識しており、全てのステークホルダーに役立つ仕事をやっていきたい。会社の印象としては真面目で誠実な姿勢で仕事に取り組む社員が多いと感じた。お客様、協力企業との関係が密で、信頼関係を大事にしている。全員が社業の発展、社会貢献などを肌で感じ、達成感や喜びをみんなで見せ合えるような会社でなければいけない。そのためにはベクトルを同じにし、一緒に

なつて仕事に取り組んでいく」

——今年11月には創立50周年を迎える。

「業界そのものに長い歴史があり、また若手の部長に入る。高度経済成長期やバブル景気により、業容を拡大した一方、厳しい経営環境に陥ったときもあった。そんな中で50周年を迎えられ、様々なステークホルダーには感謝の気持ちしかない。これからも『信用』を大事にし、事業を継続していきたい」

——需要環境の認識は。

「首都圏の再開発、東京オリンピック、インフラ整備などを中心に建設需要が想定されている。一方、人手不足や建機・輸送機不足などにより、いろいろな工事プロジェクトに支障が出てきており、今後さらなる深刻化が懸念される。2020年以降には建設需要の落ち込みが想定されているが、東京オリンピック後もリニア中央新幹線や再開発、インフラ需要などは続く。高度経済成長期に建設された建築物も老朽化しており、その対策も必要がある。将来的に需要が極端に落ちるとは思っていない」

——どのよう事業戦略を進めていくか。

「現在進行中の中期経営計画でも掲げているコア事業の収益基盤強化を続けていく。従来手掛ける賃貸事業を重視するとともに、材工一式受注の推進、工場設備投資の継続、生産性向上によるコスト競争力強化などに一層取り組んでいきたい。また、海外展開につながる新規投資も行うほか、国内ではシナジー効果の見込める周辺事業の拡大も検討していきたい」

——今年度の設備投資の予定は。

「前年並みを予定している。一番大きいのは安全対策。工場も新規更新がある。丸紅は東南アジアで電力関係に強く、インフラ建設の事業に関わっており、現地ゼネコンなど当社の周辺業種の方々とも付き合いが深い。私も丸紅のアジアにおける事業を統括する立場だったこともあり、こうした現地とのパイプも生かしていきたい」

——今後の海外展開の展望を。

「海外は既にタイ現地法人のタイ丸建を展開しているが、今後は東南アジアを中心にこれから経済発展する国へと拡大していきたい。親会社でもある丸紅は東南アジアで電力関係に強く、インフラ建設の事業に関わっており、現地ゼネコンなど当社の周辺業種の方々とも付き合いが深い。私も丸紅のアジアにおける事業を統括する立場だったこともあり、こうした現地とのパイプも生かしていきたい」

——中国では土木・建築需要がけた外れに大きく、現地では鋼矢板のリース業を手掛けている会社に当社をはじめ丸紅グループで33%出資している。こうした提携を大事にしながら、東南アジアへの展開を視野に入れていく」

——今後のさらなる50年に向けては。

「重仮設業は重要な産業であるにも関わらず、人材確保が難しい時期にある。当社ではダイバーシティ化を進めており、例えば女性やシニア層の登用、外国人の雇用を積極的に進めている。今後はこれをさらに進めていきたい。また、今後は海外への拡大も必要で、自分たちの知見や独自のネットワークを生かし、新しい事業に取り組んでいきたい。丸紅グループの力も生かし、他社との差別化も図っていく」

(加治屋 雄基)



丸紅建材リース 葉山 章司氏

▽葉山章司（くわやま・しょうじ）氏＝79年一橋大商卒、丸紅入社。08年執行役員・金属資源部門長代行、11年常務執行役員・金属部門長、12年常務執行役員社長補佐兼金属部門管掌役員、同6月代表取締役常務執行役員、15年常務執行役員アセアン南西アジア統括・アセアン支配人・丸紅アセアン社長。18年6月現職。丸紅の金属資源部門でのキャリアが長く、担当は非鉄金属が中心だった。90年初頭にはニューヨーク、直近はシンガポールに駐在するなど海外経験も豊富で、銅をはじめ金属資源の産地の多い南米や豪州各国を飛び回った。余暇はゴルフや散歩でリラックスを図る。座右の銘は丸紅の社是でもある『正・新・和』。56年4月15日生まれ、京都府出身。

コア事業の収益基盤強化

「現在進行中の中期経営計画でも掲げているコア事業の収益基盤強化を続けていく。従来手掛ける賃貸事業を重視するとともに、材工一式受注の推進、工場設備投資の継続、生産性向上によるコスト競争力強化などに一層取り組んでいきたい。また、海外展開につながる新規投資も行うほか、国内ではシナジー効果の見込める周辺事業の拡大も検討していきたい」

「前年並みを予定している。一番大きいのは安全対策。工場も新規更新がある。丸紅は東南アジアで電力関係に強く、インフラ建設の事業に関わっており、現地ゼネコンなど当社の周辺業種の方々とも付き合いが深い。私も丸紅のアジアにおける事業を統括する立場だったこともあり、こうした現地とのパイプも生かしていきたい」

「海外は既にタイ現地法人のタイ丸建を展開しているが、今後は東南アジアを中心にこれから経済発展する国へと拡大していきたい。親会社でもある丸紅は東南アジアで電力関係に強く、インフラ建設の事業に関わっており、現地ゼネコンなど当社の周辺業種の方々とも付き合いが深い。私も丸紅のアジアにおける事業を統括する立場だったこともあり、こうした現地とのパイプも生かしていきたい」

(加治屋 雄基)